

都道府県番号	12
都道府県名	千葉県

【 ✓ ✓ 】

*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	銚子市立飯沼小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	22
児童数	67	58	43	73	67	66	16	390	

研究の概要

(1) 研究主題

確かな学力の向上をめざした算数科指導の改善と創造
——単元の特性に応じた少人数指導のあり方——

(2) 研究主題設定の趣旨

昨年度、少人数指導の研究を1年間実践し、単に学年を小集団に分けただけでは確かな学力向上のための効果はそれほどなく、単元の特性や児童の実態を基にして指導のパターンを組み立てて、初めて有効な少人数指導になるということが分かってきた。しかしながら、少人数指導の姿がおぼろげに見え始めただけで、系統立てて考えるまでには至っていない。また、個に応じた指導の充実として、発展的な学習や補充的な学習が挙げられているが、少人数指導の中でどのような活動が考えられるかもまだこれからの段階である。そこで、本年度の研究では少人数指導のパターンや利点を明確にし、各学年の単元にふさわしい少人数指導の改善と創造に取り組む必要があると考え、本主題を設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

少人数指導時間の確保

すべての学年で、算数の少人数指導及びTTが可能になるよう日課表を工夫した。1～4年生までが担任2人少人数指導担当2人の学年2クラス4担制、5～6年生を担任2人少人数指導担当1人の学年2クラス3担制とした。

少人数担当 A						少人数担当 B					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	1年	3年	2年	2年	4年	1	1年	3年	2年	2年	4年
2	6年	2年	6年	1年	3年	2	5年	2年	5年	1年	3年
3	4年	1年	1年	3年	1年	3	4年	1年	1年	3年	1年
4	2年	6年		4年	2年	4	2年	5年		4年	2年
5		4年	3年	6年	6年	5		4年	3年	5年	5年
6			4年			6			4年		

部会別研究の充実

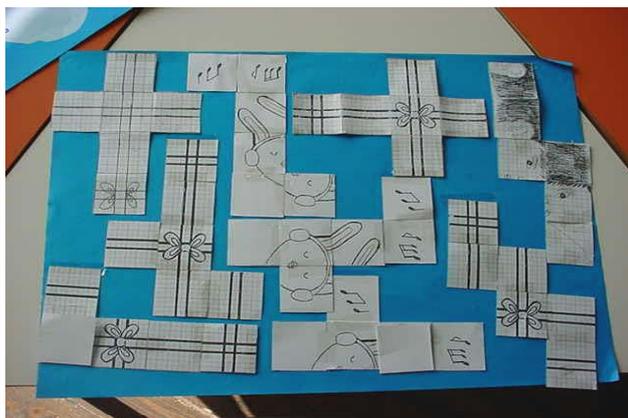
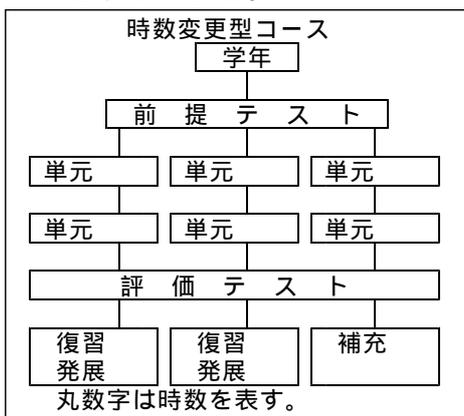
下のような部会を設定し、研究の活性化を試みた。特に教材開発部では、発展的内容及び補充的内容の開発を研究し、少人数指導（習熟度別）の中でどのような形態の実践が有効か試みている。



(2) 研究の実際

発展的内容の工夫 6年生「いろいろな立体」(習熟度別少人数指導)コースの設定について

事前の実態調査をもとに3つの習熟度別コースを作る。1つのコースは実態から指導に重点を置く単元の時間を増やし、補充的内容を取り入れる。各コースの時数の調整は、復習の段階で行い、児童の習熟に応じて発展的内容を取り入れる。



【模様や絵を描いた立方体の展開図】

指導の実際

展開図に挑戦するという場面を設定し、習熟に応じた3コースで扱う素材を工夫した。発展的内容のコースは、絵や図が展開図になるとどのような配置になるか予想し、展開図に絵を描き込むというものである。空間概念から平面的概念へと結びつける思考の逆をねらったもので、かなり高度な思考力が要求される。試行錯誤の中から辺と辺の結びつきについて考える力の育成を図った。

補充的内容のコースでは、切り取られた面を組み合わせせて展開図を作る作業を中心に、立体の構成要素の再理解を図った。

補充的内容の工夫 3年生「かけ算のひっ算」(習熟度別少人数)

コースの設定について

授業の終わりに本時の確認テストの実施及び次時のコースごとの学習内容を確認する。児童は、自分の理解度に合わせ次の自分のコースを決定する。コース選択能力を養い、自分がなぜそのコースにしたか説明できることをねらいとする。ただ、単元はじめの段階では、習熟度B・Cから習熟度Aへは難易度により移動制限ありとした。

指導の実際

習熟度Cのコースでは、授業の最初に前時の復習を取り上げ、本時との関連を

+	の位	-	の位
	2		1
X			3
			3
	6		
	6		3

など、補充的活動に重点を置いた。かけ算の筆算は小単元が系統化されているので、左のような位取りを意識したかけ算表を毎時間利用するよう心がけた。このような問題を解くことで、繰り上がりに自信がない児童が集まったときも、繰り上がりなしのかけ算を復習しながら、繰り上がりの仕組みを理解できるようにした。「分からないことはコースを変えれば分かるようになる。」という児童の感想が聞かれるようになった。

ドリルタイムの充実(全校で行う補充的内容)

本校では毎週月曜日の午後、全校で行う補充の時間としてドリルタイムを実施している。1・2学期は各クラスごとに行い、さらに学年に一人専科又は加配の教師が入り2クラスを3人体制で支援している。担任は個別の支援を行い、担任ではない教師は丸つけなどを中心に行う。

3学期は、算数学習の基礎となる2年生のかけ算九九を取り上げ、1クラスを2コースに分け、少人数クラスとした。各コースには2人の教師が入り、個別の支援を中心に行っている。(Bコースには普段算数を指導している加配の教師が入る)コースの選択は、基本的には本人の意志を基に決めていくが、教師が助言をする場合もある。AとBのコースは自由に変えることができるようにして、児童の意欲の継続化を図っている。

